

村野浄水場 西系浄水施設更新工事
技術提案書 評価結果

管理番号 2

技術提案項目			求める提案内容	評価の項目(審査の視点)	配点 (加算点)	加算点の評価方法	評価	技術評価点	評価理由(下線部:減点対象箇所)
分類	No.	提案項目							
施工に関する事項	1	近接する周辺構造物に対する変位抑制	既設沈澱池撤去時に設置する土留め壁は、稼働中の浄水施設や枚方市道(村野浄水場外周線)に近接しており、掘削に伴う影響が考えられる。そのため、土留め壁の変位抑制について、具体的な提案を求める。	掘削工事における、別紙図面のTYPE-2、TYPE-3、TYPE-4の3断面の土留め壁の変位抑制手法の実現性及び有効性について評価する。 ただし、具体的な根拠(計算書、施工計画図等)を提出すること。 なお、設計時における土留め壁の変位量については、TYPE-2において57.46mm、TYPE-3において116.11mm、TYPE-4において66.93mmを想定している。 有効な提案項目*の中で、土留め壁の各断面の変位量に延長を乗じた値の合計を延長の合計で除した値が小さい提案から順に配点を加算する。 変位量は小数点第3位を切り上げた値とする。 ※以下の提案は有効な提案としない。 ・想定した各土留め壁の変位量を超過するもの ・施工計画困難と思われるもの ・計算過程が不明瞭なもの	8	A:具体的な土留め壁の変位抑制手法の根拠の提示がある (5点) B:上記以外 (0点) また、有効な提案項目の中で、各断面の変位量を下式に代入し、 α が小さい順にさらに加算する 提案されたTYPE-2断面の変位量 = $\delta 2$ 提案されたTYPE-3断面の変位量 = $\delta 3$ 提案されたTYPE-4断面の変位量 = $\delta 4$ TYPE-2断面の延長 L2 = 79.5m TYPE-3断面の延長 L3 = 8.4m TYPE-4断面の延長 L4 = 15.0m $\alpha = (\delta 2 \times L2 + \delta 3 \times L3 + \delta 4 \times L4) \div (L2 + L3 + L4)$ α が最も小さい (＋3点) α が2番目に小さい (＋2点) α が3番目に小さい (＋1点)	B	0	B:上記以外 ・TYPE-2の1号橋周辺において、変位抑制策2)「土留め壁背面側の盤下げ」と「土留め壁背面側の仮設構台の設置」が施工計画困難であると判断したため。 (施工計画に対応が必要な1号橋についての記載がなかった。) 有効な提案ではないため、 α は評価しない。
	2	マスコンクリートの水密性確保	本工事における沈澱池やろ過池等にはマスコンクリート部があり、温度ひび割れ対策や鉄筋のかぶりを大きくする等、水密性の確保に配慮しているが、施工時のひび割れ対策による水密性の確保も重要である。そのため、施工時における対策について、具体的な提案を求める。	コンクリートの水密性を確保するため、施工時において、以下の項目に関する実現性及び有効性のある提案について評価する。 なお、温度応力解析の結果により決定する対策については、評価の対象外とする。 ①コンクリート打設時の工夫 ②貫通管等貫通部の処理 ③養生方法等その他	4	A:①～③全ての提案が妥当である (4点) B:①～③のうち、2項目が妥当である (2点) C:上記以外 (0点)	A	4	A:①～③全ての提案が妥当である ①コンクリート打設時の工夫 ・ポンプ車のホース先端に扁平型ホースを設置し、自由落下による材料分離の防止 ・下端部打設時に透明な型枠の使用による充填不足の防止 ・部位毎に最適なパイプレタの使い分け など ②貫通管等貫通部の処理 ・貫通部周辺のひび割れ防止のため鋼板を設置 ・貫通部の貫通部を強固に固定 など ③養生方法等その他 ・気温に合わせた保温保湿養生シート、自動散水の導入 ・養生日数の延長と温度センサーによる温度管理
	3	地域に対する環境負荷の低減	本工事箇所は、住宅地に隣接しているため、既設構造物撤去時や躯体築造時を含めた全工期にわたり騒音、振動及び粉塵に留意する必要がある。そのため、騒音、振動及び粉塵の対策について、具体的な提案を求める。	騒音、振動及び防塵対策について、以下の項目に関する実現性及び有効性のある提案について評価する。 ①騒音、振動及び粉塵を、それぞれ低減できる設備 ②騒音及び振動を、それぞれ低減できる工法や機械 ③騒音、振動及び粉塵それぞれの管理手法	4	A:①～③全ての提案が妥当である (4点) B:①～③のうち、2項目が妥当である (2点) C:上記以外 (0点)	A	4	A:①～③全ての提案が妥当である ①騒音、振動及び粉塵を、それぞれ低減できる設備 (騒音)防音壁又は着脱式防音パネルの設置 (振動)振動低減土嚢と重機下に防振材の設置 (粉塵)センサ付き自動散水設備の設置 ②騒音及び振動を、それぞれ低減できる工法や機械 (騒音・振動)コア削孔を行い、底版圧砕の騒音・振動を低減 (騒音)ダンプトラックリアゲート騒音防止装置の採用 など ③騒音、振動及び粉塵それぞれの管理手法 (騒音・振動・粉塵)常時計測管理ができるシステムに加え、各環境負荷における予測システムを導入 など
	4	ICT等を活用した施工管理	本工事は、稼働している浄水施設と近接することや、長期にわたり施工を行うことから、安全性向上及び生産性向上等を図ることが重要である。 現在、大阪広域水道企業団ではDX戦略を策定し、ICT等の活用を進めているところであり、提案者についてもICT等を活用した施工管理手法について、具体的な提案を求める。	ICT等を活用した施工管理手法について、実現性及び有効性のある提案について評価する。	4	A:妥当な提案が5項目以上である (4点) B:妥当な提案が3～4項目である (2点) C:上記以外 (0点)	A	4	A:妥当な提案が5項目以上である ①切盛土・転圧等のマシンガイダンス、ドローンによる測量 ・進捗管理、運搬車の運行・土量管理を行うシステムの導入 ②3Dスキャンにより鉄筋径・間隔・かぶりを自動計測し、調書作成・遠隔臨場を行えるシステムの導入 ③測量工にレーザーキャナ・ドローン等のICT技術の導入 ④重機等に作業員等を識別し、警告を行うAIカメラの導入 ⑤複数の大型クレーンの稼働を3Dモデルで再現・監視し、接触や越境の危険性を警告し、強風・雪等の観測・予測により作業可否の判断を行うシステムの導入 ほか3件の提案
加算点合計					20			12	

工事成績点に関する事項	5	工事成績点に係る減点	大阪府又は大阪広域水道企業団発注(単価契約によるものを除く。)の土木一式工事で、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの間において完成検査を受け、工事成績点70点未満と判定された実績の有無 ・実績については、入札参加者である特定建設企業体の代表者の実績について評価するものとする。 ・特定建設工事共同企業体の代表者以外の構成員として参加していた施工実績にあっては、出資比率20%以上のものに限る。	-10	大阪府又は大阪広域水道企業団発注工事における工事成績点の減点 ・70点未満(過去1か年度の取得成績点)	-	-	大阪府及び大阪広域水道企業団発注(単価契約によるものを除く。)の土木一式工事で、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの間において完成検査を受け、工事成績点70点未満と判定された業者に土木一式工事AA等級の業者がいなかったため。
-------------	---	------------	--	-----	--	---	---	--